酒呑童子山地域の自然景観

津江山系南部の雄　酒呑童子山

酒呑童子山地域は，大分県の西端にあって，福岡県，熊本県に接する津江山系の山岳地帯です。その最も南側に位置する主峰の酒呑童子山は，西に連なる小鈴山とともに，地域を代表する山岳です。東西に稜線を延ばし西端にハナグロ山，東端に四ッ城山などが立ち並ぶ広域な山系は，津江山系の南部の雄にふさわしい山容をしています。

上津江側から望む酒呑童子山系

山体を深く削る渓流（鯛生川）

深い谷に挟まれた酒呑童子山地域

酒呑童子山地域は，基盤となる花崗岩の上に，何度も繰り返された火山活動による堆積物でおおわれた山岳の集まりです。

こうした新旧の火山噴出物からなる複雑な地層を削って流れる川原川と鯛生川の深い谷に挟まれた酒呑童子山地域は，独立した山塊で，稜線を境に南側を上津江村，北側を中津江村の２つの村に分けています。

残された自然林で生きのびている貴重な植物

酒呑童子山地域では，126科668種を確認しましたが，この中には近くにある自然公園の特別地域内指定植物やこれに準じるヒメナベワリ，コケイラン，ヤクシマホツツジなどの101種（15.2%）の貴重植物が含まれています。

この地域の自然林は伐採されて極端に減少し，スギ，ヒノキの人工林が多い地域です。尾根や谷などにわずかに残された自然林や二次林などに貴重な植物が生育し続けているのです。

コケイラン（笹野渓谷）

尾根に残されたブナ林（酒呑童子山）

自然林の名残をとどめている屋根や谷

津江山系の森林は，以前は大部分が優れた自然林におおわれていたようです。今ではほとんど全域がスギ，ヒノキの人工林になっていますが，酒呑童子山地域の稜線上にはブナ林，谷沿いや急斜面にはモミ林やアカガシ林などが残っています。植栽を免れた谷にはケヤキ，サワグルミ，カツラなどの渓谷林も残っています。

このようにかつての自然林の名残をとどめている姿が各所に見られます。

地域の産業を育む自然環境

酒呑童子山地域を含む津江山地や日田地方は地形的にも気候的にもスギ，ヒノキの美林を発達させるのに最もよい条件となっています。この地を利用した育林業は適切な地域産業であると言えましょう。

かつてこの地方の山全体をおおっていた自然林は残り少なくなっていますが，そこに生育する動物たちとともにこの地域の自然の支え役をしてきたことになります。

スギ林と作業風景（中津江村）

人工林と一線を引く渓谷の自然林（笹野渓谷）

優れた植生景観を維持している稜線部

酒呑童子山の稜線には，ブナの自然林が残されており優れた植生景観を保っています。原生状態に近い森林は，スズダケを伴うブナ林とツクシシャクナゲを伴うブナ林です。やや二次林化した森はミズナラ林となっています。人工林の多いこの地域で，稜線に原生状態で残されているブナ林は，津江山系にとっては，四季を通じて季節感を味わえる優れた植生景観と言えましょう。